

大麦管理特報

令和5年9月
魚津市
魚津市農業技術者協議会

大麦の収量・品質確保には、排水対策の徹底が重要です。
稲刈り後早めに額縁排水溝を設置し、ほ場の乾きを促しましょう。
あわせて、石灰質資材の施用、適期のは種作業により苗立ちを確保しましょう。

1. 排水対策の徹底

- ① 額縁排水溝と長辺方向に基幹排水溝を設置しましょう。トラクタの車輪跡などに水がたまらないよう、ほ場が乾いた状態で作業を行いましょう。
- ② 溝は連結し、途中で水が停滞しないように手直しを行い、排水口を深く掘り下げましょう。

排水対策は、重要な技術だよ！

水があると根が腐ってしまうんだ

額縁排水溝は早めに設置

基幹排水溝は7~8m間隔で設置

排水口は深く掘り下げ、確実に連結

水路はしっかり止める

用水路

排水路

2. 土壌改良資材の施用

土壌pH6.0~6.5を確保するため、石灰質資材を必ず施用しましょう。

○石灰質資材の施用の目安

資材名	10a当たり施用量
苦土石灰	100kg
砂状ケイカル	120kg

※作付前の土壌pHが低い場合(5.5未満)は、施用量を増やしましょう。

3. 種子消毒の徹底

雲形病などの発生を防ぐため、次のいずれかの方法により、種子消毒を行いましょう。

防除法	処理方法及び注意事項
薬剤粉衣	ベンレートT水和剤20を種子重量の0.5%粉衣(種子10kgに水200ml、薬剤50gを入れて均一に混和する。)
循環式催芽器	45°Cの温湯に2.5時間浸漬する。(時間を厳守する)

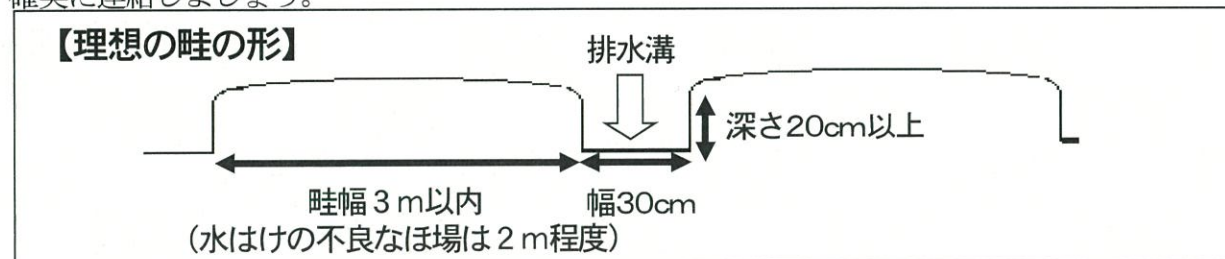
※「循環式催芽器」で温湯消毒した種子は、過湿による発芽障害を防ぐため、水をよく切って乾かす。

4. 適期は種作業の実施

良好な出芽・苗立ちを確保するため、**10月上旬までに、ほ場が乾いた状態で、施肥・耕起・は種・作溝の一連の作業を1日で実施**しましょう。

(1) 耕起・畝立て

- ① 耕起作業は、トラクタの速度を落として土を細かくし、**碎土率60%以上**を確保しましょう。乾きが悪いと土を練ってしまい、碎土率が上がりません。
- ② 畦幅は3m以内とし、**しっかりした溝(幅30cm、深さ20cm以上)**を設置して、排水口に確実に連結しましょう。



(2) は種量の厳守、適正なは種深度の確保

- ① は種量を厳守し、適正な苗立ち数を確保しましょう。苗立ち数が過剰になると茎が細くなり、品質低下の原因となります。
- ② は種深度は深さ3cm程度としましょう。は種深度が深いと生育が不揃いになるとともに、湿害を受けやすくなります。

は種時期	目標苗立ち数(本/m ²)	は種量(kg/10a)(ドリル播)
9月6半旬	140	6.0
10月上旬	150	6.5
10月中旬	200	8.5



(3) 適正な基肥の施用

基肥の過剰施用は、倒伏や茎が細くなるなど、品質低下の原因となります。地力に応じて適切な施肥量を施用しましょう(右の表を参照)。

肥料名	10a当たり施用量
エコ大麦44号	40~45kg

(4) 除草剤の散布

除草剤の散布により、初期生育を確保しましょう。

薬剤名	10a当たり散布量	散布時期
リベレーターG	4~5kg	は種後~麦2葉期
リベレーターフロアブル	60ml(希釈水量100ℓ)	は種後~麦3葉期